

# 川越農林振興センターだより



埼玉県のマスコット コバトン

第18号 平成24年3月発行

発行 川越農林振興センター

電話 049-242-1808(代表)

e-mail r421810@pref.saitama.lg.jp

ホームページ <http://www.pref.saitama.lg.jp/soshiki/k11/>



## 「狭山のさといもコロッケ」の普及活動が農林水産大臣賞を受賞！

平成23年度普及活動全国コンクールの表彰式が、平成24年1月19日(木)、国立オリンピック記念青少年総合センターで開催され、埼玉県川越農林振興センターが農林水産大臣賞を受賞しました。このコンクールは全国農業改良普及支援協会の主催で、今年度、全国で39課題の応募があり、最優秀の普及活動事例に当センターが選ばれたものです。



さやま里芋増産倶楽部



岩本農林水産副大臣から表彰状を授与される仲所長

選ばれた事例『「さといもコロッケ」の開発を通じた青年農業者育成活動』の内容は以下のとおりです。

狭山市は県内有数のさといもの産地です。しかし、産地をリードしてきた生産者の高齢化が進み、産地を継続・発展させる担い手の確保が必要でした。そこで当センターは、さといもの親いもを活用しようとしている青年農業者を支援し、産地の新たな展開を図ることにしました。7人の青年農業者が集まり、平成22年2月に「さやま里芋増産倶楽部」(以下、増産倶楽部)が設立されました。

活動の中で、さといもの親いもは油と相性

が良いことが分かり、コロッケを開発することになり、業者に依頼して試作を繰り返した末、「狭山のさといもコロッケ」が誕生しました。食品加工業者との取引にあたっては、JAいるま野が仲介する仕組みにしました。さらに、地域内にコロッケを流通させるために、小口販売に対応できる流通業者を市内の食肉店に紹介し、コロッケが店頭で売られるようになりました。また増産倶楽部とともに「狭山のさといもコロッケ」の様々なPR販売を行いました。

この活動を通じて、青年農業者の資質が向上したこと、親いも出荷を組み入れた新しい経営モデルが構築できたこと、収益性の向上により増産倶楽部のさといもの作付け面積が拡大したこと、狭山のさといもコロッケが消費者に広く親しまれるようになり、地域の新たな特産品として地域の活性化にもつながったことなどが高く評価されました。



## 狭山市4Hクラブのプロジェクト活動が農林水産省経営局長賞を受賞！

狭山市4Hクラブは、平成24年2月29日に東京で開催された第51回全国青年農業者会議においてプロジェクト活動を地域活動部門で発表しました。発表演題は「食べて元気！地域が元気！さといもPR作戦」です。

高品質ですが知名度の低い狭山産さといものPR活動と消費拡大対策についてクラブ員がアイデアを出し合い、2年間継続して行った活動の経緯を発表しました。審査の結果、全国2位の農林水産省経営局長賞を受賞しました。

さらに、プロジェクト活動を含めた、これまでの活動が評価され、全国農村青少年教育振興会長賞も受賞しました。

クラブ員からは「みんなで協力し、続けてきた活動が認められてうれしい、これからも狭山産の野菜のPRを続けていきたい」と喜びの声が聞かれました。



発表者の市川悟さん(右)と補助の小澤隆明さん(左)

## 管内イチゴ生産者の研究会組織が誕生！

平成23年9月29日、管内の高設イチゴ生産者12戸により、JAいるま野ストロベリーファーマーズ（会長：粕谷紀仁氏）が設立されました。

これは、管内のイチゴ生産者の栽培技術の向上や販売促進を目的として、高設イチゴ栽培農家の代表者、JA、振興センターとで組織化の検討を進めてきたものです。



設立総会

設立後は、栽培技術研修会や会員圃場の巡回、先進地視察研修を行い、栽培・経営の研鑽を行っています。



圃場巡回研修

現在、管内のイチゴ栽培面積は約3ha（内高設イチゴ栽培約2ha）となっています。振興センターでは、この会の活動を支援しながら、管内のイチゴ生産の振興を図っていきます。

## 援農ボランティアや民間企業が三富地域の農家支援を開始！

三富地域農業振興協議会(齊藤満会長、事務局 J A いるま野)は、平成14年に県、関係市町、農協、農家、住民代表等により三富地域の農業振興を目的に設立されました。

協議会では、三富地域での農業体験や平地林散策、さらには落ち葉掃きなどの活動を農家との協働活動により展開するため、「三富地域ネットワーク」を運営しています。

ネットワーク会員は、県内外から多くの老若男女が参加し1,100名を超えています。

一部の会員からは、一時的な農家支援に止まらず、継続的な活動による農家支援について提案がなされていました。

また、農家からは、農業への理解のため消費者とのふれあい活動が強く求められていました。

そのため、平成23年9月に「援農ボランティア制度」を11名のボランティアと5戸の受入農家により創設しました。農家支援の前に4回の研修を経て10月から活動を展開しています。

農家での活動は、野菜の播種～出荷調製まで、季節に応じた様々な作業をお手伝いしています。



農家における実践研修

ボランティアの方々からは、「慣れない作業で大変です。でも美味しい野菜をいただき、楽しくお手伝いをさせていただいています。」などの声が聞かれています。



播種機を操作する援農ボランティア

一方、農家からは「思った以上に色々と作業を手伝っていただけて助かっています。」などの声が寄せられています。

また、環境問題に対する社会の意識の高まりに伴う企業の社会貢献活動の一環として、農家への支援も本年度、初めて受入を行いました。



企業の社会貢献活動により整備された平地林

平成23年10月には日本クラフトフーズ(株)、平成24年3月には日本工営(株)の社員に、それぞれ平地林を綺麗にする管理作業として下草の刈り取り作業等に汗を流していただきました。

社員からは「デスクワークと違い、自然の中で楽しい汗がかけました。でも、きつかった。また、機会があったら参加したい。」などの声が聞かれました。

これらの取組に当たっては、三富地域の歴史的経過や農村文化などの理解を得た上で活動をいただいております、今後の農家と都市生活者による協働として極めて大切なことと考えています。

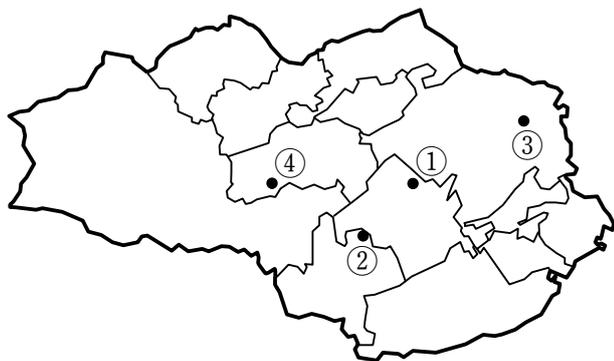
本年度始まったばかりの取組ですが、三富農業の維持発展にとって欠かすことのできないことであり、一層の拡大と充実が必要となっています。

ボランティア活動を行いたい個人や企業、そして受け入れていただける農家の方々がいらっしゃいましたら、お気軽にお声を掛けていただけたら幸いです。

## 管内の水辺再生事業が完成！

「川の国埼玉」の実現に向け、平成20年度から取り組んでいる水辺再生100プランが平成23年度で完了します。

川越農林振興センター管内では、農業用水関係で4箇所を実施しました。



- ① 弁天掘地区
- ② 赤間川用水地区
- ③ 伊佐沼地区
- ④ 鹿台堰地区

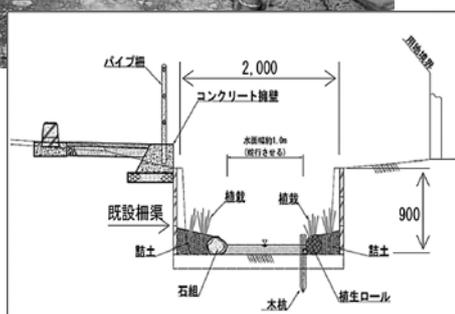
### 1. 弁天掘地区（狭山市下奥富）

事業期間：平成22年度～平成23年度

総事業費：15,119千円

事業主体：埼玉県（東松山農林振興センター）

事業内容：植栽工、石組工、安全施設整備ほか



水路内の盛土や植生により水生生物の生息環境を整備。また、安全に周辺を散策できるよう沿道にパイプ柵を設置

### 2. 赤間川用水地区（入間市春日町）

事業期間：平成20年度～平成23年度

総事業費：81,596千円

事業主体：埼玉県（東松山農林振興センター）

事業内容：散策路整備、転落防止柵設置、ヒメイワダレソウの植栽ほか



水路脇に散策路を整備し、安全を確保しつつ、水辺に近づける場を創出



水路法面に雑草を抑制する効果もあるヒメイワダレソウの植栽を行い、良好な景観を創出



### 3. 伊佐沼地区（川越市伊佐沼）

事業期間：平成20年度～平成23年度

総事業費：654,798千円

事業主体：埼玉県（東松山農林振興センター）

事業内容：押え盛土、  
植生盛土（ハス田、ヨシ盛土）、  
階段護岸ほか



ハスは伊佐沼を代表する景観のひとつ



木道イメージ図

既存のハス田付近に、新たなハス田を拡張  
整備し、木道を設置



既設の護岸を補強し、浅瀬や植生箇所を設  
けるため、押え盛土を設置

### 4. 鹿台堰(ろくだいせき)地区（日高市高麗本郷）

事業期間：平成21年度～平成22年度

総事業費：37,500千円

事業主体：日高市

事業内容：鹿台堰の補修、水車の改修、  
ビオトープ整備、ハス池整備



景観、親水性及び魚類の生息環境に配慮し  
た工法で、堰を補修



昔の水車を復活



フナ・エビ・タナゴなどの水生生物を増や  
すため、ビオトープを新設

## 一度歩いてみませんか！ 天覧山周辺の森林を整備しました！

天覧山は、飯能市の市街地の北西にある、標高195mの低山ですが、山頂からの眺望はすばらしく、飯能市街を一望でき、天候が良い日には、スカイツリーまで見渡すことができます。このため、市民の散策コースや、県内はもとより都内の小学校の遠足コースとして、大変親しまれています。



麓の谷津田を観察する小学生

天覧山を中心とした森林のエリアは、約160haの面積を持ち、そのうちの97haは、飯能市の景観緑地に指定され保全が図られています。森林の面積の半分はスギ、ヒノキの人工林、残りは雑木林となっています。

どちらも、長期間にわたり手入れが行われていなかったため、林内は暗くなり、安心して山歩きできないような状況でした。

また、近隣の住民からは、鬱蒼とした森林から侵入するイノシシ等の被害対策が求められていました。



手入れ前の密集した人工林

そこで、彩の国みどりの基金を活用した事業や森林整備加速化・林業再生事業等を組み合わせ、一帯の森林整備に平成21年度から取りかかりました。



高性能林業機械を使用した森林整備

その結果、スギ、ヒノキの林は見違えるように明るくなり、荒れていた登山道も修復され、散策や遠足等の利用者に好評を博しています。森林と住宅地の間も、除伐により見通しが良くなったため獣害が減少し、住民に喜ばれています。



手入れ後の明るくなった人工林

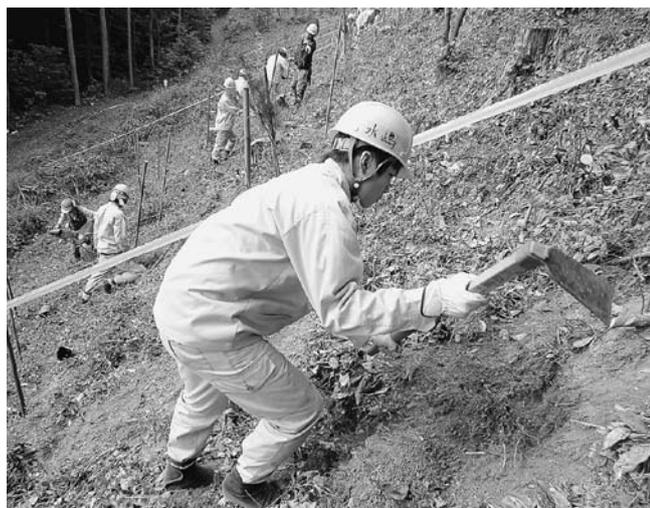


歩きやすいように修復された登山道

## 「越生ふれあいの里山」を森林教育に活用！

「越生ふれあいの里山」は、越生町上野地区に位置する約107haの森林です。

ここでは、NPO法人埼玉森林サポータークラブが年間を通して森林整備を行っているほか、民間企業が社会貢献を目的とした植栽や下刈り等を行っています。



杉戸農業高校の植樹体験

今年度は、県立杉戸農業高等学校、同川越工業高等学校や越生町立梅園小学校が、間伐や植樹などの体験学習を行い、さらに県職員2年目研修の場としても活用されました。

今後も森林の大切さを広く県民に理解していただくため、積極的に支援していきます。



梅園小学校の間伐体験

## 公共施設等の木造化・内装木質化を進めています

平成22年度に成立した「公共建築物等における木材の利用の促進に関する法律」を受けて、森林整備加速化・林業再生事業を利用し、公共施設や社会福祉施設の木造化・内装の木質化を進めています。



木質化された東飯能駅自由通路

平成21年度から平成23年度までの3年間で、川越市や日高市の市庁舎の一部、東飯能駅自由通路など8つの施設が西川材で新築・改装されました。

平成24年度以降も引き続き西川材の利用拡大に取り組んでいく予定です。



新築された飯能市シルバー人材センター

## 活躍する入間地域の農業者を紹介

### 落ち葉を掃いて半世紀の山田茂美さん 紅赤栽培で 地域特産物マイスターに認定！

山田さんは、家族3人のさといもと小かぶ主体の経営です。味の良い野菜栽培にこだわりを持ち、平地林60aの落ち葉堆肥で土づくりを進めています。また、父から引き継いだ埼玉発祥のさつまいも品種「紅赤」の保存栽培を続け、県内で第一人者になるまで栽培を極めました。



山田さん御一家

※に認定されています。

今年度のマイスター認定は、全国で12名と少数。所沢市では初めての認定者です。

「これからは、生まれ育った三富地域の農業の活性化にマイスターとして尽力したい。」と山田さん。今後の活躍が楽しみです。

※特産物の栽培・加工等の分野で豊富な技術を持ち産地育成の指導者となる人材を（財）日本特産農産物協会が認定。

このことが高く評価され、今年度の地域特産物マイスター

### 所沢発スイ〜トな6次産業！ 陽子ファームの池田さん 「地産地消の仕事人」に認定

今年度、「地産地消の仕事人」※に選ばれた池田容子さんは、所沢市の陽子ファームで長年、無農薬・無化学肥料栽培に取り組んできた農業者です。農園は、果樹（収穫体験）と露地野菜（宅配）が経営の中心。池田さんは、昼は農作業、夜は農産物加工と多忙な日々を送っています。加工品の目玉はコンフィチュール（仏語でジャムの意）。農園で収穫したブルーベリーなどを北海道産シュガーと国産レモンを用いて仕上げた逸品です。

他の果樹園からのジャム製造依頼も多く、所沢市では、果樹部会を母体とするグループのジャム加工を一手に引き受けています。

※地産地消推進の中心的役割を果たすことが期待される人物で、認定は農林水産省。



認定された池田さん

## 入間市の(有)桂ファームが埼玉農業大賞を受賞！



有桂ファーム代表の栗原さん

入間市で養鶏経営を営む有限会社桂ファームが第2回埼玉農業大賞農業ベンチャー部門大賞を受賞しました。

(有)桂ファームは平成3年設立。子供からお年寄りまで、すべてのお客様に喜ばれるおいしい卵生産をめざしています。

適正な飼養羽数を維持し、環境に配慮した効率の良い生産管理を行っています。



有桂ファーム（養鶏場）

卵の9割以上を直接消費者に販売するなど、都市近郊において安定して存続できる農業経営を実践していることが高く評価されました。



上田知事と栗原さん御夫妻

### 川越農林振興センターだより第18号

平成24年3月発行

発行 埼玉県川越農林振興センター

問い合わせ 管理部企画担当

電話 049-242-1808

FAX 049-243-7233